

家族が向き合う未来型キッチンを世界に提案

「ミラノサローネ 2016」出展

“DAIDOCORO”

クリナップ株式会社

クリナップは、イタリア・ミラノで開催された世界最大の家具見本市「ミラノサローネ 2016」と同時開催された「ミラノ・デザインウィーク（ブレラ地区）」に未来型キッチンを出展しました。

今回発表したクリナップのコンセプトモデル『DAIDOCORO』のテーマは、「重ねる」です。キッチン・リビング・ダイニングのLDK空間を一つに重ねた、新しい食住空間を提案しました。日常生活の4シーン「つくる」「食べる」「くつろぐ」「ふるまう」に合わせて、ワークトップの素材や高さを設定し、デザインしました。『DAIDOCORO』に集う人たちの目的に合わせて自由に使える設計になっています。クリナップの企業理念「家族の笑顔を創ります」を具体的に実現する、家族が向き合う未来型キッチンです。



床面からテーブルトップまで積層フォルムで形成。テーブルは4つの生活シーンごとに異なる高さ。積層部分は、事前の設計次第で収納に活用できるほか、可動式のタブレットスタンド、ミニテーブル、ワインクーラー、調味料ラックなどを設置できます。

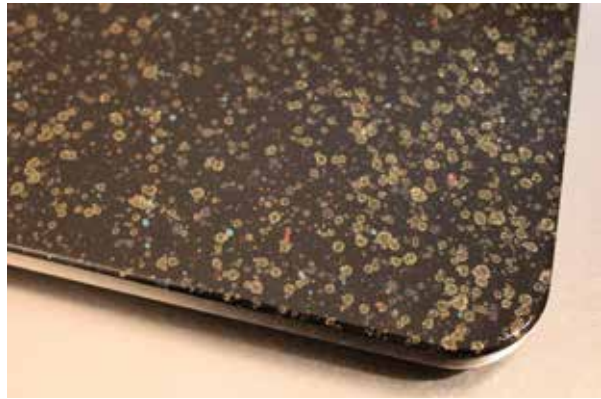
クリナップは、システムキッチンの概念を日本ではじめて提唱したキッチン専門メーカーの新たな挑戦として、2014年にはじめて「ミラノサローネ」に出展参加。その際提案した「ふるまい」と「つどい」の概念を形にした『DAIDOCORO』という2つのキッチンは多くの方に好評でした。今回はさらに進化した『DAIDOCORO』に合わせて、「流レーンシンク」搭載のシステムキッチン『S. S.』の展示コーナーを設け、クリナップ独自の機能や技術を見ていただきました。

■開発の視点

現代の住居は、複数の部屋から、1つの大きなLDK空間へと変化しています。家具や建具は壁付けが多く、気がつくと家族が背を向けています。クリナップはキッチン、リビング、ダイニングを部屋の中心に集めて高さを揃えることで自然と家族の視線が重なるDAIDOCOROをつくりました。4つの生活シーンが1つになった食住空間、それが家族が向き合う『DAIDOCORO』です。



「リビングカウンター」は光の当て方で、平面に奥行きや立体感を感じさせます。「麻の葉」を手作業でひとつずつ配置しました。



京友禅の着物の柄付け技法である「たたき染め」をモチーフに「重ね塗り」を表現しています。クリナップ独自のカラー加工技術です。



「囲炉裏ⅠH」は、囲炉裏の火のように中央に行くほど火力が高くなります。鍋を置く位置で火力を調整できるので、調理する人の操作を低減。



ステンレス表面を電解研磨して施した柄の上からカラー加工を施しました。淡い柄が奥から浮かび上がるような奥行きと輝きを実現した難易度の高いステンレス加工技術です。

「ミラノサローネ2016」のクリナップ出展詳細は、クリナップのホームページ特設サイトで紹介しています。ぜひご覧ください。